



公益社団法人

東京都理学療法士協会

NO.234

都士会News

2022.2.26 発行
◆発行 公益社団法人
東京都理学療法士協会
◆発行人 森島 健
◆編集人 井出 大
医療法人社団永生会
法人本部 地域支援事業部
〒193-0942
八王子市梶田町 590-4
TEL :042-661-4025

第44回東京都理学療法学会のご案内

第44回東京都理学療法学会

大会長 寄本恵輔（国立精神・神経医療研究センター）

第44回大会では公式 LINE の友だち募集中！

SNS・Youtube でも情報展開中です。

ハッシュタグはハイジの都学会です！

大会ホームページ

<https://sites.google.com/view/44th-tokyo/>

大会 Youtube チャンネル

<https://www.youtube.com/@ハイジの都学会>

このチャンネルでは、学会の最新情報や大会長のメッセージ、講師の紹介、見どころなどをお届けします。理学療法に関わるすべての方々に有益な情報を発信し、より多くの方にご参加いただけるよう、さまざまなゲストを迎えながら盛り上げていきます！

ハイジの都学会

場所：杏林大学 井の頭キャンパス

日時：2025年9月7日

参加申し込み：2025年6月8日～



友だち追加 >>

ID : @tokyo-pt

LINEアプリでQRコードを読み込んでください
または上記IDを検索して友だち追加してください。



234号の目次

第44回東京都理学療法学会準備委員会	1～3
事務局からのお知らせ	4～7
災害対策委員会	8～13
地域活性局	14～21
渉外局	12～23
エスカレーターマナーアップ推進委員会	24
広報局外宣部	25
福祉保健局障害福祉部	26

福祉保健局高齢福祉部	27
第8回日本理学療法管理学会学術大会	28
第11回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会	29
スポーツ局スポーツ支援・推進部	30～36
スポーツ局子どもの健康・安全部	37～40
スポーツ局パラスポーツ部	41～42
学術局学術誌編集部	43～44
編集後記	44

第44回東京都理学療法学会大会開催のお知らせ

概要

日時：2025年9月7日（日） 場所：杏林大学 井の頭キャンパス

大会長：寄本 恵輔（国立精神・神経医療研究センター）

副学会長：榎本 雪絵（杏林大学） 準備委員長：房村 遼（緑成会病院）

参加申し込み：6月8日～ 事前参加登録必須 当日参加登録不可

HP: <https://sites.google.com/view/44th-tokyo/>

特別企画

1. スタンド アップを極める
2. デジタル時代におけるアクティブシニアの躍動 ―通いの場 2.0 ―
3. パラスポーツと理学療法の接点

東京都シンポジウム

1. 2040年人口減少フェーズを見据えた東京都理学療法士減の現状と活用
2. いずれ来る首都直下型地震を見据えて計画すべき平時の災害リハビリテーション
3. 脳卒中患者のリハビリテーション ペイシエントジャーニーの実際（仮）

教育ディスカッション

1. 重度重複内部障害を有する患者に対する多面的理学療法
2. パーキンソン病に対する場面別の理学療法士の役割
3. 周術期のがん患者に対する標準的な理学療法の実践
4. 脳卒中患者の歩行障害に対する基本的な理学療法

ハンズオンセミナー

1. 入谷式足底版療法に基づいた歩行評価
2. 腰痛患者に対する病態別治療アプローチ

都民公開講座「期待される理学療法士とは？」

主に東京で活動する23団体の患者会に参加していただき、それぞれの視点から理学療法士のあり方を伺います。YouTubeで紹介動画を公開していますのでご覧ください。

公式 Youtube チャンネル <https://www.youtube.com/@ハイジの都学会>

第44回大会チラシは許諾期間終了のため削除させていただきました
東京都理学療法士協会広報局

研修会のお知らせ

会員各位

平素より本会活動にご理解とご支援を賜っておりますことに感謝いたします。

さて、このたび、群馬県理学療法士協会主催で関東甲信越ブロック協議会所属の10都県士会会員を対象とした以下の研修会のご案内がございましたのでお知らせいたします。

研修会名：「理学療法士の未来を政策の視点から考える」

講師氏名：田中まさし氏（理学療法士・参議院議員）

形式：オンライン（ZOOM）

申込：先着順

生涯学習ポイント・点数付与有無：あり

（登録理学療法士更新ポイント、
認定・専門理学療法士更新点数）

ご多用のところかと存じますが、是非、ご参加につきましてご検討いただけますと幸いです。

引き続き、よろしくお願いいたします。

参議院議員 理学療法士
田中 まさし 先生
関東甲信越ブロック
合同研修会
6月11日 (水) 19:00-20:00
オンライン (Zoom) にて開催
※詳細は裏面をご参照ください

田中まさし先生
公式LINE

理学療法士の未来を政策から考える

予算委員会にて
総理に療法士の声を届ける

各種会議・委員会にて
療法士の質上げを議論

職域拡大に向けた
積極的な意見交換

政治を知ることが、療法士の未来を守る一歩につながる
田中まさし先生は、療法士の処遇改善、制度整備に取り組んでいる
国会議員です。
政治のことは難しく感じても、**聞くだけでも行動になります。**
この機会に是非ご参加ください。

公社）東京都理学療法士協会

事務局長 豊田 輝

研修会のお知らせ

関東甲信越ブロック合同研修会のお知らせ

日頃より群馬県理学療法士協会へのご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。
このたび、田中まさし後援会群馬と群馬県理学療法士協会が合同で政策研修会を企画しました。今回、多くの皆様に広くご参集いただきたく「関東甲信越ブロック合同研修会」とさせていただきます。本研修会は、「理学療法士の未来を政策の視点から考える」ことを目的に、理学療法士と政治の関係性について、理解を深める機会としたいと考えております。講師には、組織代表でもあり、国政の場でご活躍されている田中まさし先生（参議院議員）をお招きし、現状や課題、今後の展望についてご講演いただきます。ぜひ多くの皆様にご参加いただき、未来を見据えた学びと対話の場としていただければ幸いです。

【研修会概要】

- ◆日時：令和7年6月11日（水）19時00分～20時00分
- ◆開催方法：オンライン開催（Zoom）
- ◆対象：関東甲信越ブロックの各理学療法士会 会員
- ◆講師：田中まさし先生（参議院議員）
- ◆定員：250名（先着順）
- ◆参加費：無料
- ◆申込方法：事前申込制（下記URLまたはQRコードより）

【参加申し込みフォーム】

<https://forms.gle/Q1TG26Bwi1bbVtFJ8>

※申込時にいただいたE-mailアドレス宛に

Zoom情報を自動返信いたします。

メールが届かない方は以下までお問い合わせください。



◆ポイント付与


登録理学療法士更新ポイント 区分1「理学療法政策」 1.0ポイント
認定理学療法士/専門理学療法士更新点 1.0点

◆主催

田中まさし後援会 群馬県

群馬県理学療法士協会 政策活動委員会

群馬県理学療法士協会 政策活動委員会 小保方祐貴

お問い合わせ  yobokata.pt@gmail.com

日本理学療法士協会 関東甲信越ブロック協議会 創立 50 周年記念誌 表紙デザイン募集の応募についてお願い

応募締め切りは 6 月 30 日（月曜日）

詳細、応募用紙はこちらから↓

<https://www.pttokyo.net/kaiin/2025/05/25989.html>

1 開催趣旨

関東甲信越ブロック協議会は、創立 50 周年を迎えます。この記念すべき節目に、多くの会員の皆様にご参加いただけるよう、記念誌の表紙デザインを募集します。

2 募集テーマ

50 年の歩み、そしてこれからの 50 年へ

3 主催

日本理学療法士協会 関東甲信越ブロック協議会

4 応募資格・受賞資格

公益社団法人 日本理学療法士協会 関東甲信越ブロック会員

5 応募規定

- (1) 応募作品は未発表のものに限ります。
- (2) 応募点数に制限はありませんが、1 作品ずつご応募ください。
- (3) 応募作品は返却いたしません。
- (4) 採用作品の著作権は主催者に帰属します。
- (5) 応募作品は第三者の権利（著作権等）を侵害しないものとしてください。万が一、第三者の権利を侵害する場合（侵害する恐れがあると主催者が判断した場合を含む）は、受賞を取り消すことがあります。
- (6) 表紙デザインには、以下の要素を必ず含めてください。
 - ・「日本理学療法士協会 関東甲信越ブロック協議会」の文字
 - ・「50 周年記念誌」であることがわかるデザイン
- (7) デザインのサイズは、日 A 4 判の縦（横 210mm × 縦 297mm）で作成してください。
- (8) 作成方法は自由です（手描き、デジタル、写真 等）。
- (9) デザイン原稿がそのまま印刷に使えない場合は、一部修正することがあります。

6 応募方法

別紙応募用紙に必要事項を記入し、作品とともに同封のうえ、提出先まで郵送（宅配便可）してください。

【提出先】

〒407-0046

山梨県韮崎市旭日町上條南割 3251 - 1

山梨県立あけぼの医療福祉センター 療法科 有泉 静佳 宛

日本理学療法士協会 関東甲信越ブロック協議会 創立 50 周年記念誌 表紙デザイン募集の応募についてお願い

7 応募締切

202 5 年 6 月 3 0 日（月）当日消印有効

8 審査

(1) 一次審査：50 周年記念誌作成ワーキンググループ委員により最終審査に進む 5 点を選出。

(2) 最終審査：関東甲信越ブロック士会長会議にて、採用作品 1 点を決定。

(3) 結果発表：202 5 年 8 月上旬ごろ

* 入選者には直接ご連絡いたします。

(4) 審査結果に対する異議・問い合わせ等については一切応じられませんので、ご容赦ください。

(5) 本要項の規定に違反している、他の作品の模倣や極めて類似した作品が既にあった場合は、審査対象から除外し、また、入選・受賞の決定後であっても取り消します。

9 賞

入選者 1 名に、賞状および副賞として賞金 10,000 円を授与いたします。

10 表彰式

第 44 回関東甲信越ブロック理学療法士学会（山梨県）の開会式にて表彰いたします。

* 特別の事情がない限り、表彰式への参加をお願いいたします（代理人不可、交通費や宿泊費等は自己負担となります）。

12 個人情報の取り扱い

募集にあたって収集した応募者の個人情報については、本デザイン募集及び審査結果の連絡等のみに使用し、それ以外の目的で使用いたしません。

〈 応募・問い合わせ先 〉

〒 407-0046

山梨県韮崎市旭日町上條南割 3251 - 1

山梨県立あけぼの医療福祉センター 療法科 担当：有泉（ありいずみ）

TEL：0551 - 22 - 6112（科直通）

FAX：0551 - 22 - 6184

MAIL：rpt.shizuka@gmail.com

＜注意事項＞

* 作品は折り曲げないように、定形外封筒を使用してください。

* 作品のデジタルデータがある場合は、後日データの提出をお願いする場合があります。

公社）東京都理学療法士協会

事務局長 豊田 輝

中野区「災害時の避難所等における支援活動に関する協定」締結報告

【協定締結式】

日 時：2025 年 5 月 19 日（月） 15:30 ～ 16:00

会 場：中野区役所 区長応接室

参加者：

（中野区）

酒井直人氏（中野区長）

吉沢健一氏（中野区総務部防災危機管理担当部長）

永井亨忠氏（中野区総務部防災危機管理課長）

（本会） 森島 健 会長

原 辰成 中野区支部長

松本浩一 災害対策委員会委員長



【報告】

このたび、中野区との間で「災害時の避難所等における支援活動に関する協定」の締結いたしましたので、ご報告申し上げます。

本協定は、中野区内において災害が発生した際に、理学療法士が避難所等において高齢者など要配慮者への支援を行うために必要な事項を定めたものです。具体的には、避難所や二次避難所、被災者の自宅等において、①被災者の生活環境や身体状況等についての調査、②被災者の生活機能低下や血栓の予防のための運動・セルフケアの指導、③被災者の使用する補装具等の福祉用具の調整などの支援活動を想定しています。この協定の締結によって、中野区の要請に対して、理学療法士が公的に活動することが可能になりました。

今後は、この協定締結を出発点とし、平時から中野区との連携を深めながら、区民をはじめ都民の皆さまの健康と安心に貢献できる活動を展開していきたいと考えております。

報告者：松本浩一（災害対策委員会）



Mitaka みんなの防災フェスタ 参加報告

開催日時：2025年3月22日（土）10:00～15:00

開催会場：三鷹中央防災公園

テーマ：「楽しく学べる、役に立つ！」

来場者数：約3,200人（一般都民）

主催：特定非営利活動法人 Mitaka みんなの防災

参加団体：56団体

参加部局：三鷹市支部、公開講座準備委員会、災害対策委員会

参加内容：（公社）東京都理学療法士協会としてブース出展

実施内容：生活不活発病予防、段ボールベッド体験、車いす操作体験、協会・JRATの活動紹介など

来訪者数：255人 ※昨年187人

【報告】

三鷹市支部、公開講座準備委員会、災害対策委員会が連携し、「Mitaka みんなの防災フェスタ」にブース出展という形で参加させていただきました。

能登半島地震をはじめ、災害発生時には「生活不活発病」や「災害関連死」に関する報道がなされ、平時からの予防啓発や被災地支援に対して、理学療法士やJRATへのニーズが高まっています。

災害時には時間の経過とともに、身体的・精神的なストレスが蓄積され、行動範囲が狭まり活動量が低下することがあります。その結果として生じる合併症の一つが「深部静脈血栓症」であり、今回のブースではその予防に関する理解の促進や普及啓発に取り組みました。

また、避難所などで使用される「段ボールベッド」の紹介と体験も行い、来訪者からは「思っていたより安定している」「あたたかい」といった声が寄せられました。

ほかに、車いす操作体験では、日常生活の中で触れる機会が少ないこともあり、ご家族連れや個人の方に加えて、小学生が友達同士で参加する姿も多く見受けられました。芝生と舗装道路との違いや、「下り坂は特に怖い」といった声が聞かれるなど、操作体験を通してさまざまな気づきがあったようです。また、車いすの種類についても高い関心が寄せられていました。

来場者数・ブース来訪者数ともに昨年を上回り、幅広い年齢層の方々がいらっしゃっていたことから、防災に対する関心の高さを実感しました。今後もこのようなイベントを通して、理学療法士としての知見を都民の皆さまに還元できるよう、努めてまいりたいと思います。



報告者：水口達哉（東京都理学療法士協会 災害対策委員会 委員）

第 21 回災害時安否確認システム予行演習 結果報告

第 21 回災害時安否確認システム予行演習 結果報告

公益社団法人東京都理学療法士協会

災害対策委員会 委員長 松本浩一

謹啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より、本委員会の運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、去る 3 月 11 日より 1 週間にわたり実施いたしました「第 21 回災害時安否確認システム予行演習」につきまして、結果を取りまとめましたので、ご報告申し上げます。

ご多忙の折にもかかわらず、ご参加ならびに広報・周知活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。

今後も本予行演習を年 2 回の頻度で継続実施する予定でございます。引き続き、ご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

【第 21 回災害時安否確認システム予行演習】

●実施概要

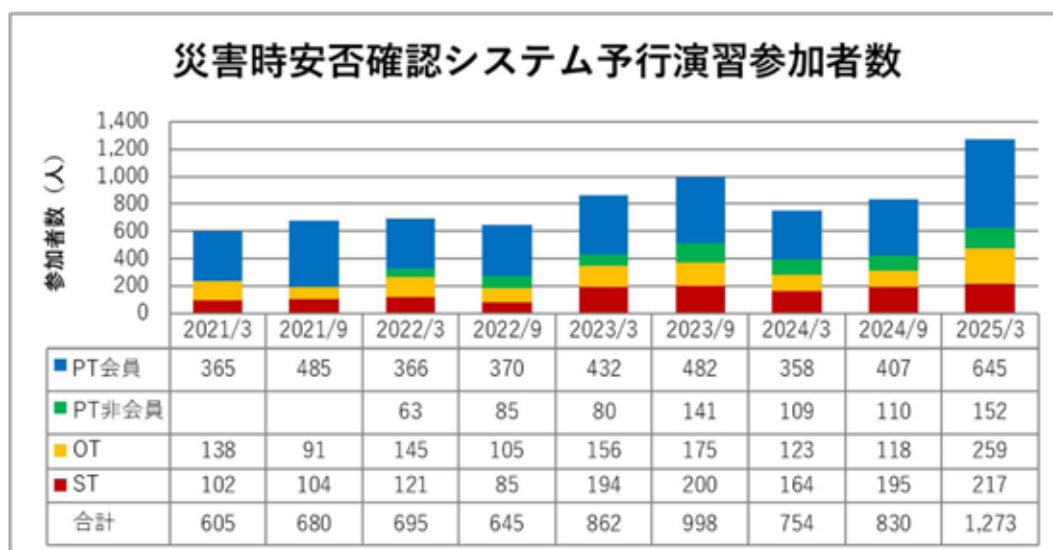
日 時： 2025 年 3 月 11 日（火）～2025 年 3 月 18 日（火）

対 象： 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 ※会員・非会員問わず

方 法： Google フォームを用いた情報入力

備 考： 東京都理学療法士協会・東京都作業療法士会・東京都言語聴覚士会の合同開催

●参加者数

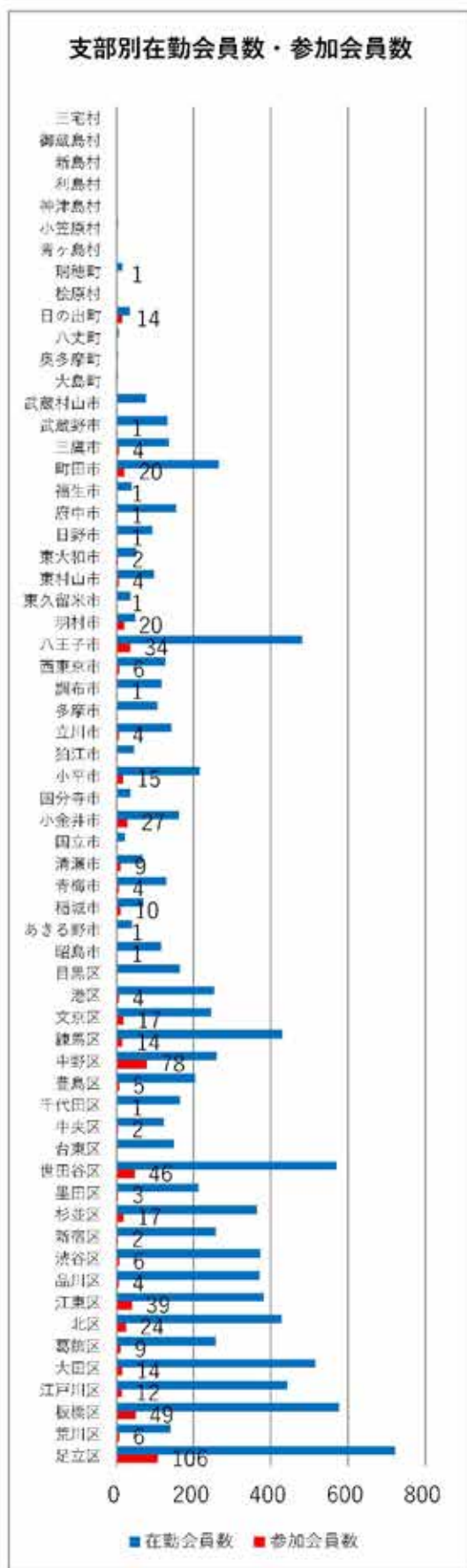


第21回災害時安否確認システム予行演習 結果報告

●支部別参加会員数・参加率・増減

支部	今回			前回		前々回	
	在勤会員数	参加会員数	参加率	参加会員数	対前回増減	参加会員数	対今回増減
足立区	720	106	14.7%	57	49	37	69
荒川区	139	6	4.3%	2	4	3	3
板橋区	577	49	8.5%	7	42	5	44
江戸川区	444	12	2.7%	5	7	7	5
大田区	514	14	2.7%	12	2	12	2
葛飾区	256	9	3.5%	2	7	2	7
北区	426	24	5.6%	12	12	13	11
江東区	379	39	10.3%	1	38	24	15
品川区	369	4	1.1%	6	-2	3	1
渋谷区	373	6	1.6%	7	-1	19	-13
新宿区	257	2	0.8%	4	-2	6	-4
杉並区	363	17	4.7%	29	-12	11	6
墨田区	212	3	1.4%	1	2	3	0
世田谷区	570	46	8.1%	44	2	36	10
台東区	147		0.0%		0		0
中央区	121	2	1.7%	1	1	1	1
千代田区	163	1	0.6%	2	-1	1	0
豊島区	203	5	2.5%	4	1	1	4
中野区	259	78	30.1%	63	15	84	-6
練馬区	429	14	3.3%	8	6	10	4
文京区	243	17	7.0%	17	0		17
港区	252	4	1.6%	3	1	1	3
目黒区	164		0.0%	1	-1	1	-1
稲島市	114	1	0.9%	1	0	2	-1
あきる野市	39	1	2.6%		1	3	-2
稲城市	67	10	14.9%		10		10
青梅市	128	4	3.1%	9	-5	2	2
清瀬市	66	9	13.6%	5	4	5	4
国立市	21		0.0%		0		0
小金井市	162	27	16.7%	2	25	2	25
国分寺市	35		0.0%		0		0
小平市	214	15	7.0%	8	7	1	14
狛江市	45		0.0%	1	-1		0
立川市	140	4	2.9%	5	-1	3	1
多摩市	104		0.0%	3	-3		0
調布市	116	1	0.9%		1		1
西東京市	126	6	4.8%	2	4	6	0
八王子市	479	34	7.1%	31	3	15	19
羽村市	48	20	41.7%	14	6	6	14
東久留米市	34	1	2.9%	1	0		1
東村山市	97	4	4.1%		4		4
東大和市	50	2	4.0%	1	1		2
日野市	93	1	1.1%	2	-1		1
府中市	153	1	0.7%		1	1	0
福生市	37	1	2.7%	1	0		1
町田市	265	20	7.5%	15	5	15	5
三鷹市	134	4	3.0%	4	0		4
武蔵野市	131	1	0.8%		1	2	-1
武蔵村山市	75		0.0%		0		0
大島町	2		0.0%		0		0
奥多摩町	2		0.0%		0		0
八丈町	4		0.0%		0		0
日の出町	33	14	42.4%	9	5	12	2
検原村	1		0.0%		0		0
瑞穂町	14	1	7.1%	1	0	2	-1
青ヶ島村	0		#DIV/0!		0		0
小笠原村	2		0.0%		0		0
神津島村	1		0.0%		0		0
利島村	0		#DIV/0!		0		0
新島村	1		0.0%		0		0
御蔵島村	0		#DIV/0!		0		0
三宅村	0		#DIV/0!		0		0

第 21 回災害時安否確認システム予行演習 結果報告



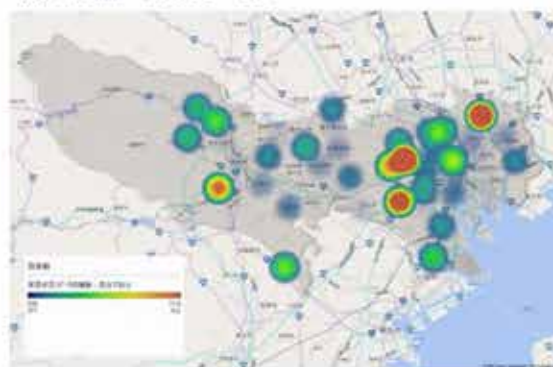
第 21 回災害時安否確認システム予行演習 結果報告

●参加会員数_ヒートマップ ※赤色：多⇔青色：少

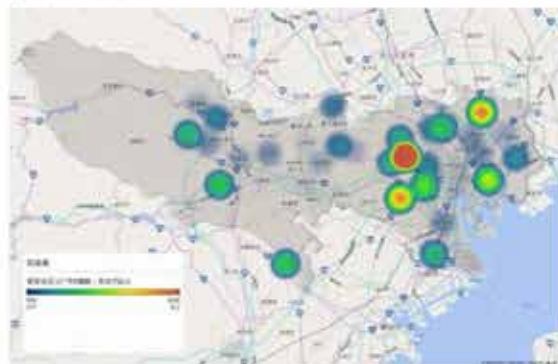
◇第 21 回：R7.3.11～3.18



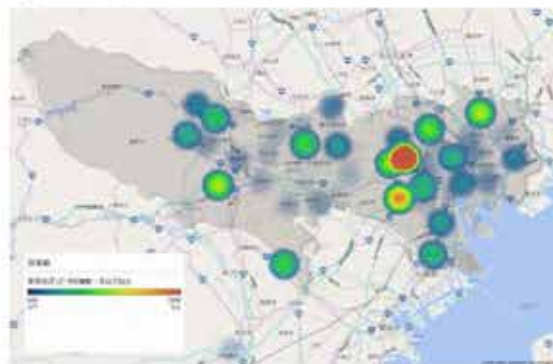
◇第 20 回：R6.9.1～9.8



◇第 19 回：R6.3.11～3.18



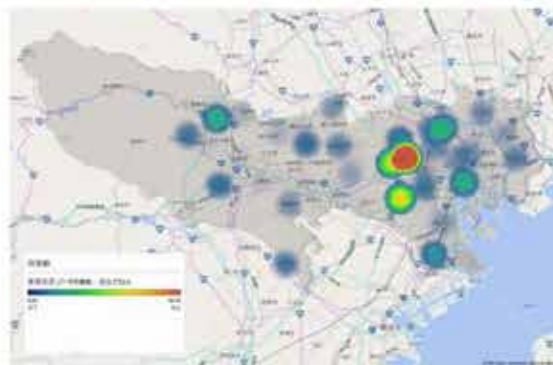
◇第 18 回：R5.9.1～9.8



◇第 17 回：R5.3.11～3.18



◇第 16 回：R4.9.1～9.8



～総括～

全体（職種や会員の有無を問わない）の参加者数が 1,200 人を超えるとともに、本会会員の参加者数も 600 人を超えて過去最多となりました。また、支部別集計やヒートマップの結果から、地域別にみた参加地域の増加や、各地域における会員参加者数の増加が確認されております。これもひとえに、会員の皆様のご協力の賜物であると考えており、改めて深く感謝申し上げます。

当面の参加会員数の目標として、会員数の約 1 割にあたる 1,000 人を掲げております。会員参加者数は増加傾向にあるものの、目標にはまだ達していません。今後とも、ご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

区西多摩南多摩ブロック部

理学療法の日 介護予防キャンペーン開催について

【開催概要】

7月17日は理学療法の日です。西多摩南多摩ブロック部では都民の皆さまに、理学療法士と一緒に考え、体験出来る介護予防キャンペーンを企画しました。体力測定や相談、体験コーナーやミニ講座など様々なブースをご用意しております。皆さまお誘いの上、是非ご参加下さい。皆さまのご参加お待ちしております。

日時：2025年7月12日（土） 10：00～13：00

会場：東京たま未来メッセ 展示場A、

対象：都民の方

参加費：無料

申し込み：不要

内容：体力測定、歩きの相談・指導、インボディ測定、・体験コーナー（車椅子体験、片麻痺体験）、・エスカレーターマナーアップ、ミニ講座

<ミニ講座>

※同じ会場内でブースを設けて行います。お気軽にご参加下さい。

テーマ：『フレイル予防』

講師：東京都介護予防・フレイル予防推進センター 副センター長 植田拓也氏（理学療法士）

講演時間： 10：30～、11：30～、12：30～の3回を予定。

内容：フレイル予防に関連する講座と実際の運動など

報告者：西多摩南多摩ブロック部 部長 濱田賢二

区西多摩南多摩ブロック部
理学療法の日 介護予防キャンペーン開催について

理学療法の日

介護予防キャンペーン

～ 理学療法士と今からできる介護予防～

2025年7月12日(土) 午前10時～午後1時

会場 東京たま未来メッセ 展示室A

参加費 無料・申し込み不要・入退室自由



体力測定コーナー

測定結果を基に
理学療法士がアドバイス！



インボディ測定

体組成計で体をチェック！



障害体験コーナー

片麻痺体験から介助の工夫など
を学ぼう！



歩きの相談コーナー

理学療法士に歩き方をみてもらおう！



ミニ講義「フレイル予防」

講師：東京都介護予防・フレイル予防推進センター副センター長
植田拓也氏(理学療法士)

開始時間①10時30分 ②11時30分 ③12時30分 各講義15分

お気軽にご参加ください！

動きやすい服装で、飲み物も忘れずに！
熱中症には気をつけましょう！



「エスカレーター、止まって乗りたい人がいる」

東京都理学療法士協会
エスカレーターマナーアップも同時開催！

お問い合わせ：東京都理学療法士協会西多摩南多摩ブロック部

✉ nishiminamitamablock@gmail.com

主催：東京都理学療法士協会 西多摩南多摩ブロック部

後援：東京都南多摩保健医療圏地域リハビリテーション支援センター・東京都西多摩地域リハビリテーション支援センター



公益社団法人
東京都理学療法士協会

地域活性局 都民向け支部事業報告会 開催報告

日時：2025 年 2 月 19 日（水） 19：00-21：00

会場：TKP 新宿カンファレンスセンター

カンファレンスルーム 6B

参加者：21 名

発表事業：

- ①福生市支部 ふくふくまつり リハビリ相談会
歩行分析 AI トルトを活用した健康意識への取り組み
福生市支部 高橋 匠
- ②練馬区支部 健康・介護予防イベントにおける相談会
～体組成計による区民健康相談会と学校保健事業～
練馬区支部 岡崎 俊秀
- ③神津島での健康福祉祭りにおける講演会
区中央部区南部島しょブロック部 川井 孝士
- ④豊島区支部 運動器の健康増進支援に関する講演会
パパといっしょに体を動かして遊ぼう
豊島区支部 鈴木 享之

内容：福生市支部からは、リハビリ相談会で歩行分析 AI を用いた評価と相談が実施され、70 代の参加者が最も多かったとのこと。練馬区支部からは、体組成計を用いた健康相談会と学校保健事業について説明があり、約 50 人以上の参加者があり、継続的な健康管理の重要性が強調されました。区中央部区南部島しょブロック部から神津島での健康福祉祭における講演会活動について報告があり、島民の健康増進の必要性和理学療法士の役割について議論されました。豊島区支部からは、「パパと一緒に体を動かす」講座が都士会主催事業より委託事業へと推進してきた経過を含め報告があった。4 事業の報告を通じて、地域における理学療法士の重要な役割と、AI 技術の活用、世代間交流の促進、学校保健活動の展開など、多様な取り組みが共有されました。

報告会の最後に、今年度で都士会を離れられる千葉業務執行理事にお礼を伝えました。

報告者：中澤幹夫（多摩丘陵リハビリテーション病院）



区西北部ブロック部 練馬区支部
練馬こぶしハーフマラソン 2025 大会参加報告

開催日：2025 年 3 月 23 日（日）

開催場所：都立光が丘公園 陸上競技場

対象者：予防テーピング：129 名

相談会：6 名

サポート内容：「ランナーへ走行前の予防テーピングと相談会」

【概要報告】

2025 年 3 月 23 日に開催された練馬こぶしハーフマラソン 2025 大会の参加ランナーを対象に、予防テーピングと相談会を実施しました。

大会当日に向けての準備として、2 月 12 日に当日のサポートスタッフ向けにテーピング研修会を実施し、腰部と下肢へのテーピングの貼り方等を過去の研修会の復習も交えて実施しました。さらに、3 月 7 日の事前会議では、当日のサポート内容や急変時対応の方法、ランナーに起こり得る体調変化についての講義、当日に使用する問診票を使用してのテーピングテストを実施し、大会当日に向けて準備を行いました。

大会当日、予防テーピングでは、走行中の疼痛や筋疲労を予防することを目的として、問診・評価を実施し、ランナーのニーズに合わせてテーピングを施行しました。完走後、数名のランナーがブースまで来て下さり、「テーピングを巻いてもらったから痛くなく走れたよ」、「また来年もよろしく」等のお声がけを頂きました。また、相談会では、主にテーピングの巻き方を教えてほしいという相談が多く、セルフテーピングの巻き方をアドバイスさせて頂きました。加えて、マラソン後の身体のケアに関する資料を配布し、セルフケアの方法についての周知活動も実施しました。

今回、練馬こぶしハーフマラソン 2025 大会へのサポート活動を通して、都民・区民の方との交流ができ、健康活動の増進に貢献する活動ができました。今後も、理学療法士が地域と密に関わり、都民・区民の傷害予防・健康維持のため公益性のある事業を多く行い、地域に寄り添った活動が出来ればと思います。



報告者：瀧本知未（慈誠会・練馬高野台病院）

区中央部南部島しょブロック部 大田区支部
大田区支部新人向け研修会開催報告

日時：2025年4月18日

会場：牧田総合病院 くすのきホール

テーマ：「ラポール形成のためのコミュニケーションのコツ」

講師：三科 翔（蒲田リハビリテーション病院）

松下 佳介（東急病院）

大村 隼人（東京都立荏原病院）

泊 由美（山王リハビリ・クリニック）

感想：

研修の中で特に印象に残ったのは、「聴き上手から話させ上手へ」という考え方です。中でも、話を聴く際の具体的なリアクションの一つとして紹介された「オウム返し」は、これまであまり意識して使ったことがなく、大きな気づきとなりました。

これまで私は患者様との会話の中で「そうなんですね」などのあいづちは行っていましたが、患者様の言葉をそのまま繰り返すようなオウム返しは意識的に取り入れていませんでした。

オウム返しには、患者様の言葉をしっかり受け止めているという姿勢を伝える効果だけでなく、患者様ご自身が自分の言葉を聴き返すことで状況を整理しやすくなるというメリットがあることを知りました。

また、「感嘆→反復→共感→賞賛→質問」という流れで会話を展開することで、相手が自然に心を開き、より効果的に情報を引き出すことができるという点も非常に学びになりました。

研修の後半では、他施設の方々との自己紹介や意見交換の機会がありました。前半で学んだリアクションや質問の仕方を意識して取り組みましたが、実際にはあいづちで会話が終わってしまい、オウム返しや共感、賞賛、質問へと繋げることが難しい場面もありました。今後は、会話の中で一貫して質問に繋げていけるよう、より意識的に取り組んでいきたいと感じております。

今回の研修を通じて、患者様との信頼関係を築くために必要なコミュニケーションスキルについて、具体的かつ実践的に学ぶことができました。今後は、日々の業務において「聴く力」をより意識的に活用し、患者様との信頼関係構築に努めてまいります。



報告者 池田 望実（牧田リハビリテーション病院）

区西北部ブロック部 研修会開催報告

日時：2025 年 2 月 26 日（水）

場所：順天堂大学御茶の水センタービル 901 教室

テーマ：「子どもの運動器の特徴とスポーツ障害～サッカー・野球の動作も交えて～」

講師：宮森隆行先生（順天堂大学保健医療学部理学療法学科）

中村絵美先生（順天堂大学保健医療学部理学療法学科）

参加者：204 名（対面 24 名、オンライン 180 名）

内容

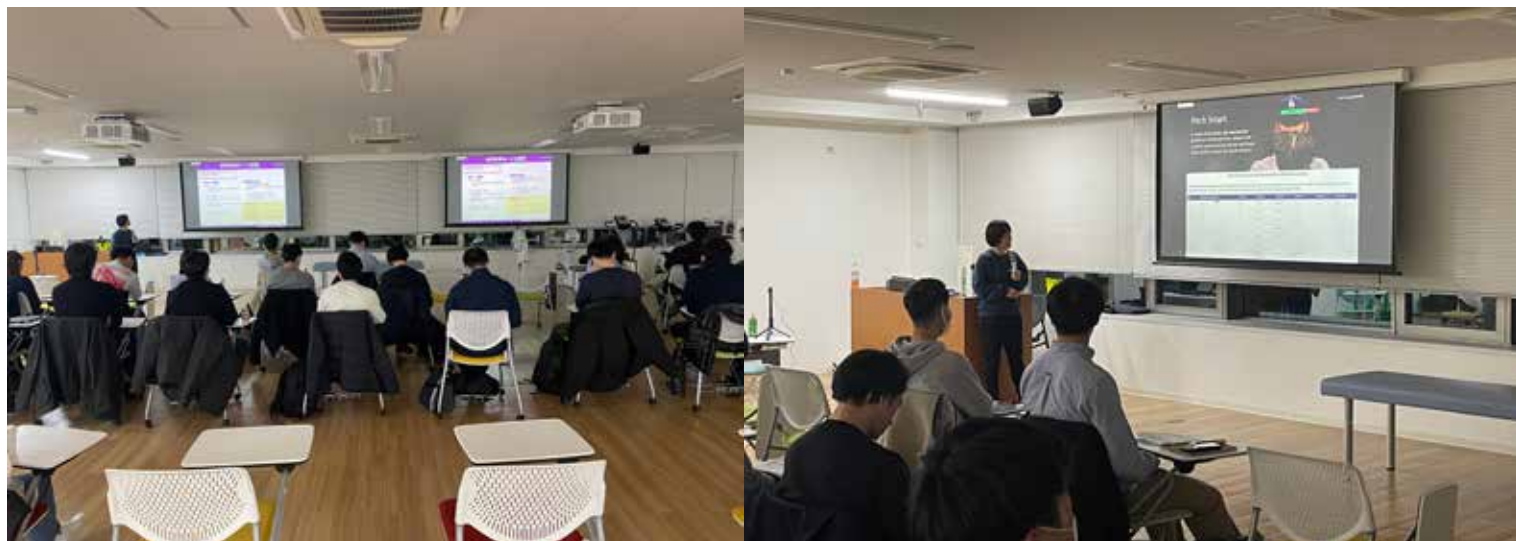
区西北部ブロック部では毎年会員向けにスポーツに関連した研修会を行っています。今回はスポーツと学校保健に関連させ、「子どもの運動器の特徴とスポーツ障害～サッカー・野球の動作も交えて～」というテーマで実施しました。講師は実際のスポーツ現場でもご活躍されている理学療法士の宮森隆行先生と中村絵美先生（ともに順天堂大学保健医療学部理学療法学科）に依頼して、対面・オンライン併用のハイブリット形式で行いました。

まず、中村先生より「成長期の子どもの特徴と問題点」についてお話し頂きました。運動の二極化や成長期の運動器の特徴、生じやすいケガ等についてグラフやイラストも用いながらわかりやすくご説明頂きました。その後、「野球選手の障害発症要因と予防」と題して論文や実例も用いながらケガをどのように予防したらよいか、異常の早期発見のために着目すべき点などについてお話し頂きました。講演では動画やデモンストレーションの提示もあり、よりわかりやすくご説明頂きました。

宮森先生からは、「Jones 骨折の発症要因と理学療法」と題して、若年男子に好発する慢性障害である Jones 骨折について疫学や先行研究も交えながら解説をして頂きました。また、発症予防や実際の理学療法については動画や実動作もご提示頂き、より細かくわかりやすくご指導頂きました。

研修会後の質疑応答では、フロアやオンラインから多くの質問があり、参加者の方々が熱心に聴講している様子がよくわかりました。実際に参加した方からは「非常にわかりやすくなった」「明日の臨床から使っていきたい」「東京で行っている研修会を遠く離れた地でも聞くことができありがたかった」などの感想が多く寄せられました。

区西北部ブロック部では、これからも都民のために活躍できる理学療法士の育成について微力ながら貢献していきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。



報告者：古庄秀明（公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院）

区西北部ブロック部 板橋区支部
板橋 City マラソンのサポート&相談会 開催報告

日時：2025 年 3 月 16 日（日）

場所：東京都板橋区 荒川河川敷

対象者：板橋 City マラソン大会参加者

大会参加者：10000 名前後（詳細な参加人数は区役所との報告会にて）

サポートスタッフ：17 名

内容：

大会概要としてフルマラソンや 5km マラソン、ファミリーラン等、様々な種目があり、参加者は総数約 10000 名前後でした。昨年度は 20℃ 近くあった気温が、今年は 10℃ にも満たず、激しい雨と風の中、厳しいコンディションの中でのサポートとなりました。そのためか、昨年度は脱水症状による搬送ケースが多くありましたが、今年は低体温症が疑われるランナーが多く、昨年以上に車椅子や担架を用いた救護所への搬送ケースが多くありました。体温低下を防ぐために、着替えの促しや温かい飲み物の摂取、エネルギー補給を行うこと等の声掛けを行いながら対応しました。今年は、ゴール後すぐに帰宅される方がほとんどで、コンディショニングブースに寄られる方は昨年より少なかったですが、ランナーの表情や震え、チアノーゼ症状の有無等、フィジカルアセスメントの重要性を実践しながら学ぶことができました。救護所の他職種スタッフからも、臨機応変に対応いただき助かりましたとの言葉をいただき、来年度以降もコンディショニング活動に加え、救護に関わる機会も経験できるような活動にしていけたらと思います。引き続き、区西北部ブロック部板橋区支部では、都民や会員のためになる活動を、地域の方々のニーズを考えながら、意義のある企画や活動を展開していきたいと思います。



報告者：遠藤 洋平（医療法人社団 健育会 竹川病院）

区西北部ブロック部 豊島区支部
運動器の健康増進支援に関する講演会

「パパと一緒にからだを動かして遊ぼう」講座を体験して～理学療法士が伝える健やかな成長のヒント～

日程：2025 年 4 月 12 日（土）、5 月 10 日（土） 10：30～12：00

場所：豊島区 区民ひろば千早（NPO 法人はばたけ千早）

参加者：2 歳～未就学児のお子さんとお父さん（合計 13 組、27 人）

講師：鈴木享之先生（スポーツ局次長 / 長汐病院）

アシスタント：酒井大将先生（山王リハビリ・クリニック、石川大輔（三宿病院）

内容：

今年度 2 回目（全 11 回）となる「パパと一緒にからだを動かして遊ぼう」講座に、初めてアシスタントとして参加してきましたので、ご報告します。今回のトピックは「足の見かたと靴の合わせ方」でした。講師の鈴木先生、アシスタントの酒井先生と一緒に楽しく活動することができました。

講座の内容は、最初に、子どもの足の特徴や、パパとの足の違いを触れて学ぶプログラムを行いました。その後、小休憩の「飲水タイム」に、実際の靴を使いながら、インソールやソールを見るポイントをわかりやすくお伝えしました。その後は、子どもたちとパパたちが一緒になって「遊ぶ」そして「褒める」体験型のプログラムとなっていました。

理学療法士としてのサポートとしては、遊びの中で、子どもの姿勢や動きの変化に気づけるよう、パパたちへポイントを伝えたり、子どもの動きを褒めるコツをシェアしたりしました。参加者皆さんが笑顔で楽しむ姿は、とても素敵でした。

今回、普段とは異なるもの（環境・活動内容）でしたが、理学療法士としての新たな可能性を感じる貴重な体験ができました。そして何より、子どもたちとパパたちの笑顔あふれる時間に参加できたことが、とても嬉しかったです。今後も地域に根ざした活動を通じて、子どもたちの健やかな成長を応援する活動をしていきたいと思います。



報告者：石川大輔（三宿病院）

「KIMES : 2025」の調査・資料収集報告

このたび、理学療法における学術及び科学技術の振興に資することを目的に、世界トップクラスの医療機器と病院機器、ヘルケアなどが一堂に展示されている韓国国際医療機器・病院機器・ヘルスケア展示会（以下、KIMES）に参加しましたのでご報告申し上げます。

KIMES は、アジア最大級の医療展示会の 1 つであり、医療の専門家と世界規模のバイヤーが一堂に会し、最新の医療技術と問題解決について継続的な探求をコンセプトとした本邦では類をみない大規模な展示会でした。具体的には、本邦ではまだまだ実務的な導入例が少ない医療における AI やロボット導入、ヘルケア、美容などについて、世界レベルの動向を確認することができました。今後の本邦における理学療法士の専門領域の拡大を検討するにあたり、関連する情報について以下にご報告いたします。

【開催概要】

名称：KIMES 2025 - Korea International Medical & Hospital Equipment Show（KIMES : 2025 韓国国際医療機器・病院機器・ヘルスケア展示会）

会期：2025.9.26-28 Busan、2026.3.19-22 Seoul

会場：COEX 06164 ソウル市カンナム（江南）区ヨンドンデロ 513（三成洞）

概要：

☑ 展示スケール 4 フロア 合計 45,000㎡

☑ 参加者：70,760 名

☑ 参加国：35 か国

☑ 出展企業：1,350 社

☑ 出展製品：35,000 アイテム

☑ 主な情報収集ブース：Hall B

Healthcare & Rehabilitation Equipment, Digital Healthcare, INSPIRE(Digital Health)

☑ 参考 URL <https://kimes.kr/eng>

【製品紹介】

製品名：MORA Vu

概要 EverEx 社が開発した AI 駆動動作解析ソフトウェア医療機器です。

MORA Vu で採用されている AI 姿勢推定モデルは、EverEx の AI 専門家が自社で開発し、約 70 万のデータポイントで学習させたものです。

5 つの脊椎ポイントを含む 24 の主要な関節ポイントを認識し、首、肩、腰の角度をカバーするリハビリテーションに最適な AI 姿勢推定モデル

です。臨床的に検証された精度により、MORA Vu は、医療従事者が客観的な動作分析データを使用して機能的な問題を早期に特定し、適切な早期介入を適用することを可能にします。さらに、定量化可能な機能

データを提供することで、治療効果の評価や客観的なエビデンスに基づく将来の治療計画の指針となります。使用料は、月および年単位契約があり、各種オプション機能により異なりますが、本邦で確認する AI 技術のものの使用料よりかなり安価でした。今後、本邦への参入計画があるようです。



「KIMES : 2025」の調査・資料収集報告

製品名：Robotic-ATT

概要 非外科的脊椎ケア用のロボット牽引治療装置です。この装置は、脊椎の減圧を行い、圧迫された神経への圧力を緩和し、断続的な減圧療法を通じて椎間板の回復を促進します。従来のシステムとは異なり、脊椎の回転による治療が可能で、可動性とアライメントが向上します。世界初のロボット減圧システムとして、シーケンシャル脊椎伸長 (SSE) プログラムを搭載し、椎間板の再発防止と循環の改善に貢献しています。高度なトラクションコントロールにより、正確な力の調整が可能になり、カスタマイズされた治療が可能になります。椎間板ヘルニア、脊柱側弯症、可動性の問題、慢性的な腰痛に効果的で、各治療は 20 分で、専門家によって操作されます。韓国内では、任意保険の対象になる技術とすることで整形外科系のクリニックなどに設置されているとのことでした。



製品名：733

概要 腕と脚のマッサーエリアを独立して動かすことができる高度なロボット技術を備えています。アーム部は 180 度まで上昇するので、体の動きの幅が広く、ストレッチ効果を最大限に発揮できます。さらに、このデバイスは自律的に立ち上がったたり座ったりできるため、従来のマッサージチェアを使用するのが難しいユーザーにとってよりアクセスしやすくなっています。これらの革新的な機能のおかげで、733 は CES 2025 のデジタルヘルス部門でイノベーション賞を受賞し、ヘルスケアロボットの技術的進歩の象徴として認められています。

**【まとめ】**

現在の AI（人工知能）の発展は著しく、世界的規模の AI の開発競争の激化により、その価格も以前よりは安価となっている。この AI 技術の競争により価格低下が生じることで、より医療機器などへの応用が拡大している。この状況下において、KIMES でも AI を実用化した製品に注目が集まっていた。本邦においても今後、理学療法士は、これらの AI 技術との融合を果たしながら、ステイクホルダーの要請に応え続けることで社会からの信頼がより確固たるものとなると推察する。

本邦における理学療法の発展過程において、理学療法評価および技術の標準化が図られる中で、間違いなく AI 技術との融合は必要不可欠であり、世界規模での動向に注目しておくことの重要性を改めて痛感した。本会においても、さらに理学療法士と AI 技術のコラボレーションを探求し、引き続き、情報把握に努め発信していきたい。

報告者 中澤幹夫 多摩丘陵リハビリテーション病院

エスカレーターマナーアップ推進委員会

委員長：齋藤弘

エスカレーターエチケット・英語版キーホルダー完成報告

この取り組みを啓発するキーホルダーは、委員の発案で事業化され、日本語版は現在までに約 1 万人の方々へお渡しすることができました。また、海外からの渡航者や日本で生活される外国人でお困りになる方々のためにも英語版の作成を進めまして、2025 年 5 月、東京国際フォーラムで開催の世界理学療法学会 2025 でお披露目することとなりました。

英語版のキャッチコピーは、メディアでも活躍されている通訳者の橋本美穂さんに全面協力を頂いております。

私たちのリサーチでは、諸外国はエスカレーターを歩いて上り下りする人は減多にないようです(都士会ニュース No233 参照)。埼玉県では条例が・・名古屋では AI を使ってアナウンスが・・大阪万博では 2 列で止まるを推進・・GACKT さんもつぶやいています。日本の習慣(社会課題)に対する当会の取り組みを世界の理学療法士に知ってもらい“スマートに、2 列で止ま乗る。エスカレーターエチケット!!”を後押ししてもらいます。さあどうする日本人。 報告者：直井寿徳(スマイル訪問看護ステーション)



英文エスカレーターマナー動画公開

新たに英文のエスカレーターマナー動画を作成しました。YouTube にて動画を公開しています。インクルーシブな社会の推進に少しでも寄与出来るようにインバウンド等、海外の方にも伝わるように作成しました。多様性を認め合う共生社会を目指し、安心・安全なエスカレーターの乗り方、止まって乗りたい方がたくさんいることが、広く周知できることを願っております。

英文動画 URL : <https://youtu.be/6FBq6xhKglQ> (2025 年公開)

日本語動画 URL : <https://youtu.be/MRBqxaKEEMM> (2019 年公開)



<英文動画 QR コード>

インクルーシブ教育体験イベント「共生社会ってなんだろう？」開催

エスカレーターマナーアップ推進委員会では、8 月 3 日曜日に、小学生を対象としたインクルーシブ教育体験イベント「共生社会ってなんだろう？」を、池尻大橋駅徒歩 1 分のイベントスペース BPM にて無料開催いたします。「障がいがある」という理由で排除されてしまう、できることや選べる道が少なくなってしまう。残念なことですが、こういった状況が日本にはまだ存在します。

わたしたち委員会は、多様な他者がともに共存していく社会に向けた活動を 2015 年より実施しています。今年で 3 回目となる今回のイベントは、障がいを持つ子どももそうでない子どもも、一緒になって学べる場となっております。本会が作成したまんが教材



「わけがあってこちら側に止まっています〜心のバリアフリー〜」を活用したワークショップやポッチャ体験を予定しており、夏休みの自由研究にもご活用いただけます。このイベントで互いを思いやる気持ちが育まれ、小さなひとつひとつの優しさが、街の風景を大きく変える力になることを、願っています。

報告者：石川愛香(森山脳神経センター病院)

<エスカレーターマナーアップ推進委員会> 各種お問い合わせ (Mail) : esca.pttokyo@gmail.com

第 23 回看護フェスタ 参加報告報告

日 時：2025 年 5 月 17 日（土） 12:00 ～ 16:00

会 場：新宿区西新宿 4－2－19 東京都看護協会会館

対 象：ブース来訪者 126 名

運営スタッフ：板井恵輔 中村樹 宮本透子

概 要：

東京都看護協会会館にて看護フェスタが開催され、本年も東京都理学療法士協会としてもブース出展し参加致しました。

内 容：

本年度の看護フェスタでは「見て聞いて一緒に学ぼう！看護のこと」をコンセプトに健康チェックや健康相談等を行っており、本協会では「筋力から分かる身体年齢」を表題に測定と簡単なセルフケア指導を実施しました。内容としましてはハンドヘルドダイナモメーターを使用して大腿四頭筋筋力を測定、加えて握力計での握力測定を実施し、全国平均値から簡易的に身体年齢をお伝えする形を取りました。これらの結果を基に、自宅でできる簡単な運動方法をお伝えいたしました。

開催中はご家族やご友人同士で結果を比較して楽しんでいただいたり、自宅でできる運動方法を積極的にご質問してくださる方々もいらっしゃいました。

近年同様の活動を続けており、本年も大変ご好評いただきました。本イベントには 200 人近くの方々が参加され、本協会ブースにもお子様からご高齢の方々、計 126 名のがお立ち寄りくださいました。測定・相談やノベルティ配布を通して様々な方に理学療法士を知っていただくことができ、さらに地域住民の皆様の健康増進の一助となる活動ができました。



報告者：外宣部 板井恵輔（緑成会病院）

障害福祉部 補装具研修会開催報告

【日時】 2025 年 2 月 28 日（金） 19：00～20：30

【タイトル】 片麻痺患者の適切な短下肢装具および環境への取り組み

【講師】 久米 亮一 氏（株式会社 COLABO 義肢装具士）

【会場】 三多摩労働会館 大会議室

【参加者】 27 名

【内容】

障害福祉部では、義肢装具士の久米亮一氏（株式会社 COLABO）を講師にお迎えし、対面で補装具研修会を開催いたしました。装具の効果や役割など基本的なお話から、回復期から生活期における実際の装具支援についてお話いただきました。当日は、なかなか病院の中だけでは経験できないような事例の動画もご紹介いただきながら、生活期の装具支援やその中での課題など、詳しくご説明いただきました。私も担当していた症例について、在宅での様子を改めて振り返るきっかけとなりました。お話の中で、装具支援格差が生む装具難民ということにも触れていただき、入院中に作製した装具のフォロー体制については、理学療法士として何ができるか、どのような体制を構築する必要があるかなど、非常に考えさせられるテーマでありました。支援の一つとして、装具に関するスマホアプリなどについてもご紹介いただき、非常に参考になるものでした。

会場からも多くの質問があり、活発な意見交換がなされ非常に有意義な研修会となりました。

報告者：工藤 弘之（大久野病院）



介護予防セミナー 開催報告

福祉保健局 高齢福祉部

介護予防・フレイル予防の活動支援

日時：2024年12月8日（日）

講師：尾崎智之氏（山中整形外科内科クリニック）

参加者：18名

場所：スリーエイトナイン三鷹

内容：

高齢都民への介護予防セミナーとして、今年は「腰痛・転倒を防ぐ体力づくり」をテーマに無料講演会を開催しました。一般都民はもとより、就労する高齢者が長く働き続けられる体づくりも内容に加えて、座学と実技のある2時間のプログラムでした。

充実した内容で、参加者からは好評をいただきました。



報告者：石塚 佳久（田無病院）

大会ホームページが開設されました

大会ホームページ <https://jptm2025.gakujiyutsuweb.net>



中澤 幹夫 大会長からのご挨拶

臨床の場で活躍してきた理学療法士が管理職を担うようになると、「管理職になっちゃった」と自分自身を表現することがあります。現場で理学療法を実践することが少なることへの寂しさから出てくる言葉かもしれません。私自身は、目の前の患者を少しでも良くするために、理学療法について一所懸命研鑽を積んできましたが、理学療法管理に関しては学んでは来なかった気がします。良い臨床家が、良い管理者になると誤解していたのかもしれませんが。良き縁があり日本理学療法管理研究会に入れていただき、管理について学ぶ機会を得ました。この管理について学ぶ中で、臨床ではない、管理者としてのやりがいを感じるようになり、管理者としての目標を持てるようになり、その中で小さな喜びも感じられるようになりました。このような経験を参加者と共有したく、今回の学術大会のテーマを「理学療法管理の喜びと基本」としました。近年、若いスタッフが管理職になりたがらないという話が聞こえてきます。現在、管理を担っている管理者が喜びを感じられるようになると、管理者を目指すスタッフが現れてくると思っています。

会場のある東京都八王子市は、高尾山が有名な街です。その年の気温にはよりますが、12月はまだまだ、紅葉がきれいな時期となります。準備委員一同、皆様のご参加をお待ちしております。

第8回日本理学療法管理学会
学術大会長 中澤 幹夫
(多摩丘陵リハビリテーション病院)

テーマ Fresh ～栄養嚥下理学療法の個性～

大会ホームページ <https://jsnspt2025.com>



松嶋 真哉 大会長からのご挨拶

平素より日本栄養・嚥下理学療法学会に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本学会は、2023年度に学会化を果たし、研究会時代を含めて過去に10回の学術大会を開催してまいりました。今までの叡智をさらに次の未来（ステージ）へと進めて行くために、この度第11回日本栄養・嚥下理学療法学会学術大会を2025年9月6日（土）、7日（日）の2日間、東京たま未来メッセで開催いたします。

本大会のテーマは「Fresh ～栄養・嚥下理学療法の個性～」です。

「Fresh」という言葉には、「新鮮な」「出来立ての」「新たな」「斬新な」「記憶に生々しい」などの意味があります。

本学会では、この言葉のようにFreshな学術的知見・観点・体験に触れる機会を提供したいと考えています。

また、栄養治療や摂食嚥下療法にはそれぞれ専門の職種が存在しますが、理学療法士は様々な職種と連携や共働を行い、多くの方々の幸せづくりに貢献してきました。これまで積み上げてきた多職種との連携を基に、今後はこの分野において理学療法士が得意とすることや強みなどの「個性」を模索していく必要があります。

本学会では、栄養・嚥下理学療法の「個性」とは何かをみんなで意見を出し合い、考えるきっかけを提供する場としたいと思います。Freshな視点を持ち寄り、理学療法士の新たな役割や可能性を一緒に模索できれば幸いです。本大会の運営は、基本的に自力で行うことを目指しており、できるだけシンプルかつ節約を心掛けています。しかしながら、運営は決して容易ではなく、大会の内容を充実させ、その成果をより大きなものとするためには、様々な方面からのご支援が必要です。本大会の意義と運営の状況をご理解いただき、特別なご支援を賜りたくお願い申し上げます。また、大会長である私自身が若輩者であり、至らない点やご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒ご容赦いただければ幸いです。

最後になりましたが、皆様のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

【活動報告】第34回全日本テコンドー選手権大会

- ・日時：2025年3月22日（土）
- ・場所：町田市立総合体育館メインアリーナ
- ・参加者：123名
- ・派遣理学療法士：3名

国際テコンドー連盟全日本協会様からのご依頼で、全日本テコンドー選手権大会に救護サポートとして活動致しました。小学生の部から一般の部まで様々な年代の方々が参加され、今大会は世界選手権の選考も兼ねていることから、参加選手の情熱が前面に出た白熱した試合となりました。

対応内容としては、脳振盪疑い、亜脱臼疑い、鼻出血、打撲（急所、膝）、過呼吸と多岐にわたり、試合を中断して対応するケースも多くありました。医療機関の受診を促した選手もあり、大会本部スタッフの方々にもご協力いただきながら対応することができました。大会を通じて、救護サポートのやりがいを感じるとともに、より質の高い対応力を身につけるため今後も研鑽していく必要性を感じました。

親身にご指導くださった国際テコンドー連盟全日本協会のスタッフの皆様、選手の皆様には心より感謝申し上げます。



報告者：木村豪志（町田病院）

【活動報告】EDORIKU パラ陸上教室サポート参加報告

日 時：2025 年 5 月 6 日（火）

場 所：江戸川区陸上競技場（雨天のため室内開催）

参加者：4 名

参加理学療法士：4 名

このたび、江戸川区と東京マラソン財団協賛の「EDORIKU パラ陸上教室」に理学療法士として参加し、競技用車椅子への移乗介助やシーティング、車椅子を漕ぐ際に必要な動作に対応したストレッチ・柔軟体操の支援を行いました。

当教室は、日常的に自走式車椅子を使用して自走が可能な身体障害者を対象としており、大会出場や競技力・体力の向上といった各自の目標に合わせて、自分のペースで参加できる内容でした。

当日は教室の冒頭に、関東パラ陸上競技協会の講師の先生より、日常生活における心構えや陸上競技場を使用するに当たっての注意点などの講義が行われました。その後、競技用車椅子（レーサー）への移乗指導や、基礎的なトレーニングが実施され、私たち理学療法士もそのサポートを行いました。参加者の体調や身体機能に応じた個別対応を意識し、特に肩関節や手関節のストレッチに重点を置いた運動指導を実施しました。

申込者は 16 名程度でしたが、あいにくの雨天により欠席者が出たため、室内にて実施しました。講師の先生方のご配慮により、限られた環境下でも参加者が安全かつ楽しく体験できるよう工夫がなされ、新規参加者からも満足の声が聞かれました。

今回の活動を通じて、障害の有無にかかわらずスポーツを楽しむ機会の重要性や、社会とのつながりを持つことの意義を改めて実感しました。参加者の笑顔や前向きな姿勢に触れ、我々支援者側も多くの学びを得る機会となりました。今後も理学療法士として、地域における社会参加の促進および共生社会の実現に向けて、積極的に支援活動に取り組んでまいります。



報告者：嶺岸 洸希（東京都立荏原病院）

【活動報告】青山学院大学フェンシング部サポート

開催日時：2025年4月12日（土）、4月26日（土）、5月17日（土）

会 場：青山学院大学

参加者数： 延べ37名

参加スタッフ：延べ6名

内 容：

スポーツ局では定期的に青山学院大学フェンシング部でのサポートを行なっています。新年度一回目のサポートでは、選手の状態を把握するため、フィジカルテストを実施致しました。フィジカルテストの結果より必要なトレーニングの立案を行なっています。

サポート内容

- ・フィジカルテスト
- ・トレーニング指導
- ・選手のコンディショニングやテーピング対応等

報告：

理学療法士として青山学院大学フェンシング部でのサポート活動は、日頃の臨床業務では経験することの難しい、スポーツ現場でのトレーニング指導やコンディショニングを学び実践させて頂く貴重な場であると感じています。

チームとしては、4月より新入生の加入もあり新たな雰囲気でも部活動が行われていました。チームの今年度の目標は「全種目団体でインカレ出場」であり、その目標に向け理学療法士としてスポーツに励む選手に対して寄り添い、トレーニングの提案や選手のコンディショニングを通して、選手と共に一丸となってサポートを行なっていきたいと思っています。



報告者：片見奈々子（まつおか整形外科クリニック）

【活動報告】江戸川区パラスポーツ初心者教室サポート報告

- ・日程：2025年3月8日、4月27日
- ・会場：東部区民館、中平井コミュニティ会館、葛西区民館、小岩アーバンプラザ
- ・参加者総数：延べ27名（新規参加者6名）・派遣者総数：延べ12名
- ・内容：江戸川区で実施されている「パラスポーツ初心者教室」は、車椅子利用者や病気や怪我などの後遺症により運動に不安がある方などを対象にフリーステップやダンベルボールボルレッジ、ビーチボール、ボッチャなどを使用し楽しく身体を動かせる教室となっています。理学療法士としては、身体機能のチェック、参加者様が楽しむための安全性を考慮したサポートができるように運動機能に合わせてサポートをさせていただきました。特に新年度の4月より、昨年の課題でもあった熱中症の対策の一貫として体調確認の強化を行いました。体調チェック記録用紙を使い、理学療法士が体操前に全参加者の体調を改めて確認することでリピーターの方々も自身の体調の変化を改めて確認することができました。これらの対策もあり、楽しい雰囲気でもケガなく教室が終えられました。子供から高齢者まで幅の広い年齢層の方が、楽しそうに活動することができました。参加者のご家族より「いつも以上に笑顔で元気ある姿がみられて良かった」との声も聞かれるほど笑顔の多い教室となりました。これから厳しい暑さを迎えるため安全にしっかり配慮しつつ笑顔の溢れる教室を続けていけるようにサポート活動に取り組んでいきたいと思っております。今回ご協力くださった皆様に感謝いたします。

報告者 スポーツ局スポーツ支援・推進部 安達瑠那（森山記念病院）



【活動報告】フェンシングサポート

- ・日程：2025年3月2日、3日、4月19日、25～27日、5月3～6日、8日～17日（延べ21回）
- ・会場：駒沢オリンピック公園屋内球技場、滝野川体育館、大蔵第二運動場体育館
- ・参加者数：延べ3241名
- ・理学療法士派遣者数：延べ40名

本年度も東京都フェンシング協会様、日本フェンシング協会様、関東学生フェンシング連盟様、日本学生フェンシング連合様からのご依頼で、フェンシング競技大会へのメディカルサポートを行っており、本年度も20日間近くの大会サポートを実施しております。

昨年度スポーツ局が実施したスポーツ活動で安全・適切な対応をするための技能テストの合格者も新たにサポート活動に加わり、スポーツ現場での急性期対応や外傷障害予防のテーピング、選手のコンディショニングにおける助言・相談の対応を行っており、スポーツ現場でしか得られない経験をしております。新しくサポートに入ったスタッフには、スポーツ現場のサポートに慣れてもらうように先輩スタッフが指導・協力しながら活動を行っております。本年度も年間通じて60回近くの大会サポートが予定されており、大会が安全に運営できるよう協力して活動していきたいと思っております。



報告者：スポーツ支援・推進部 生井真樹（世田谷人工関節・脊椎クリニック）

【活動報告】杉並区ユニバーサルタイム

- ・ 日程：2025 年 3 月 5 日、3 月 15 日、4 月 5 日、4 月 16 日、5 月 7 日、5 月 14 日
- ・ 場所：荻窪体育館、上井草スポーツセンター
- ・ 参加者：延べ 94 名
- ・ 理学療法士：延べ 26 名

スポーツ支援・推進部では杉並区ユニバーサルタイムをサポートさせていただいております。ユニバーサルタイムでは障がいの有無に関わらず安心して楽しく運動が継続できるよう、理学療法士も参加者と一緒に運動を行うとともに、参加者への運動アドバイスや体の相談等を行なっています。参加者が安全に運動を実施できるよう、さらには運動に興味・関心が湧くように杉並区職員、サポーターの皆様と環境や運動メニューを日々考えながらユニバーサルタイムを運営しております。



その中で音楽に合わせたユニバダンスやバランスボールメニューを行う等、普段の臨床では経験しない難しいものにも挑戦する機会も得られました。

また今年度より永福ユニバーサルタイムも開始となり、荻窪体育館・上井草スポーツセンター・永福体育館の3箇所での開催となります。年々事業が拡大してきておりますが、今後はさらに事業拡大が見込まれ、杉並区内の6カ所の全体育館での開催を目指しております。今後も参加者が安全に運動できる環境作りや運動するきっかけを作れるよう、引き続きサポートしていきたいと考えております。

今回ご協力いただいた先生方、誠にありがとうございました。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。



報告者：石川大輔（三宿病院）

【活動報告】東京マラソンファミリーラン 2025

- ・日程：2025 年 3 月 2 日
- ・会場：第一生命日比谷ファースト及び東京マラソンフィニッシュエリア周辺
- ・対応人数：6 組 12 名
- ・理学療法士派遣者数：6 名

東京マラソンファミリーランは、東京マラソンの盛り上がりを幅広い世代の方に味わっていただきたいという思いから、東京マラソンと同日に親子で楽しめるファンランイベントとして誕生したとのことです。今年は 459 組、合計 918 名の小学生と保護者が参加されました。参加者の中には車いすで参加されるお子さんもあり、この度サポートの依頼を頂きましたので、報告致します。

スポーツ局では、地域で実施している車いす陸上教室のサポート活動を行っております。その経験を活かし、東京マラソンファミリーラン 2025 では、車いすでの参加者やその保護者の円滑な誘導や伴走をしつつ、参加者に楽しんでいただけるようサポート致しました。当日は、イベント開始前にコースの下見や、サポートスタッフ間での打ち合わせを実施するなど、入念な準備をした上でイベントに臨みました。その甲斐もあり、事故やトラブルなくイベントを終了することが出来ました。参加されたお子さんは沿道から沢山の声援を受け、1 kmの道のりを一生懸命に走り抜けており、フィニッシュ後は笑顔があふれておりました。これからもスポーツイベントで多くの方に安全に楽しんで頂けるよう工夫しながらサポートして参ります。事前打ち合わせからご協力下さいました関係者の皆様へこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



© 東京マラソン財団



© 東京マラソン財団

報告者：土橋 夏実（国家公務員共済組合連合会 三宿病院）

【活動報告】「未来の健康を育む姿勢教育 ～包括連携校・神田女学園中学校高等学校における取り組み～」

開催日時：2025 年 4 月 10 日（木） 13:15 ～ 15:05

会 場：神田女学園体育館

対 象：神田女学園中学校高等学校（中学 1 年生、高校 1 年生）

参加者数：中学生 57 名、高校生 155 名

講 師：鈴木 享之（長汐病院）

アシスタント：渡邊祐介、森本孝則、片見奈々子、向家知宏、久木田詩穂実、藤井佳奈、門馬博、栗本祐也、板倉尚美

内 容：

昨年 6 月に包括連携協定を締結した神田女学園において、本年度は中学 1 年生および高校 1 年生を対象に全 3 回の教育協力を行うこととなりました。「姿勢教育」「アンダーウェア」「足部」の 3 つのテーマに基づき、講話と実技を交えたプログラムを展開する予定です。

今回の第 1 回目では、「姿勢教育」授業として、中学・高校生に向けて正しい姿勢の重要性を伝え、以下の内容を通じて、生徒たちが姿勢について学び、実践する機会を提供しました。

- ・ランドマークを使用した正しい姿勢の習得：具体的なポイントを示しながら姿勢の基礎を解説。
- ・ケンダル分類を用いた自己評価：自分自身の姿勢を知り、その特徴を理解。
- ・個別に適した運動の実施：姿勢分類ごとにグループ分けし、アシスタントによる「姿勢のアドバイス」や「運動指導」を実施。

女学園特有の環境や大人数への対応という挑戦を経て、新しい知見と経験を得ました。この取り組みを基に、今後の学校保健活動のさらなる充実を目指していきます。

報告者：鈴木 享之（長汐病院／スポーツ局）

【活動報告】足立区立花畑第一小学校「アセスメントにもとづいた正しい姿勢と体づくり」

開催日時：2025年2月17日（月） 11：25～12：10

会 場：花畑第一小学校 体育館

対 象：小学校4年生

参加者数：69名

講 師：渡邊祐介（東京脊椎クリニック）

参加スタッフ：鈴木享之、森本孝則、嶺岸洸希、石川大輔

内 容：

このたび、足立区立花畑第一小学校より「アセスメントにもとづいた正しい姿勢と体づくり」のご依頼をいただき、実施してまいりました。

本プログラムでは、まず「よい姿勢の見方」や「正しい姿勢によるメリット」、また「不良姿勢によって起こり得る問題点」について児童に分かりやすく伝えました。続いて、実際に児童一人ひとりの姿勢を評価し、自身の姿勢について理解してもらう時間を設けました。その後、姿勢のタイプに応じた運動を行い、自身の姿勢の特徴や苦手な動きについて気づきを促しました。授業では教員の皆様にもご協力いただき、体幹のスタビリティトレーニングを取り入れた運動を、全員で楽しく取り組みました。授業後には、「どのくらいできたか」について話してくれたり、積極的に質問してくれる児童も見受けられました。教員の方々、そして児童も楽しみながら体を動かすことができる内容となったと感じております。

ご協力いただきましたスタッフの皆様、ならびに学校関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



報告者：渡邊祐介（東京脊椎クリニック / 子どもの健康安全部部長）

【活動報告】小学生を対象とした学校安全教育（目黒区立宮前小学校）

開催日時：2025 年 2 月 28 日（金） 8：10～12：10

会 場：目黒区立宮前小学校

対 象：小学 1 年生、小学 2 年生

参加者数：小学 1 年生 64 名、小学 2 年生 42 名

講 師：佐伯 潤（スポーツ局外部委員／国士舘大学）

参加スタッフ：向家 知宏、岩山 睦

内 容：

このたび、目黒区立宮前小学校より依頼を受け、小学 1・2 年生を対象とした学校安全教育授業を実施しました。理学療法士としての専門性を活かし、子どもたちが楽しみながら防災や安全行動を学べるよう、ゲーム形式のプログラムとなっています。

1 年生には「Kids 防災レスキューゲーム」を行い、反射材の有無による視認性の違いを体験してもらいました。反射材なし・ありの模型を用意し、懐中電灯を使って探索することで、反射材の重要性を実感する内容です。活動後は、ライトの適切な使い方や夜間の危険性についても指導しました。保護者には、6～8 歳の児童が歩行中の交通事故死傷者数で最も多いというデータを提示し、登下校時に反射材を活用する重要性について啓発を行いました。

2 年生には「防災ゾンビラン」を実施しました。児童は腰にスズランテープを付け、地震直後を想定したコースを進む中で危険箇所を避ける体験を行いました。危険箇所には保護者が鬼役として配置され、近づいた児童のテープを取ることで「危険に近づかない」ことを身体的に学べるよう工夫しました。

終了後には「ブロック塀には近づかない」といった発言もあり、学習効果がうかがえました。今後も、理学療法士として地域に根ざした活動を継続し、あらゆる世代に安全と安心を届けられるよう努めていきたい。



写真：小学 1 年生に対する防災 Kids レスキューゲームの様子



写真：小学 2 年生に対する防災ゾンビランの様子

報告者：岩山 睦（人材育成部／浮間中央病院）

【活動報告】小学5年生を対象とした学校安全教育（豊島区立富士見台小学校）

開催日時：2025年2月20（木）09：20～10：05、10：20～11：05

会 場：豊島区立富士見台小学校

対 象：豊島区立富士見台小学校 小学5年生（25名、24名）計49名

講 師：佐伯 潤（スポーツ局外部委員 / 国土舘大学）

参加スタッフ：岩山睦、向家知宏

内 容：

このたび、豊島区立富士見台小学校にて、佐伯潤先生講師のもと「防災サイコロ」という教育訓練を実施いたしました。今回の訓練は、子供たちが一人で被災した状況で、自ら安全を確保できる能力を育むことを主な目的としています。

訓練の結果、児童たちの防災意識と行動に肯定的な変化が見られました。当初は「家に帰る」「友達を探す」といった直感的な行動が多く見られましたが、繰り返しの検討を通じて「安全な場所へ避難する」「ブロック塀やガラスから離れる」「大人に助けを求める」といった環境リスクに視点を向けた行動が増加しました。また、余震の危険性や環境リスクへの意識が向上し、他者と協力する姿勢や、焦らず「揺れが収まるまで待つ」など、焦った行動が減少し冷静な判断とみられる意見が増加しました。

これらの結果を踏まえて、子供が一人で被災した際「単独で危機を回避する」シチュエーションを踏まえた、より実践的な授業も必要と感じました。東京都は東京都帰宅困難者対策条例（第3条）で、都民について、発災後のむやみな移動の抑制を求めています。保護者も例外ではなく、その場からむやみに移動することができないとすると、

災害が発生した際、子供自身が「安全を確保できる知識・技術」を実践的な授業により育むことで、「生きる力」になると考えます。

さらに、学校だけでなく保護者を含めた家庭との連携強化が不可欠であり、発災時は保護者自身の安全確保を最優先とし、「すぐに再会すること」よりも「生きて再会すること」の重要性を啓発していく必要があると感じました。今回、安全教育の機会を頂いた豊島区立富士見台小学校の皆様、心より感謝申し上げます。



写真：講義中の様子

報告者：向家 知宏（人材育成部 / 浮間中央病院）

【実施報告】令和6年度東京都バーチャルスポーツを用いた障害者のスポーツ実施促進事業

近藤夕騎（国立精神・神経医療研究センター病院）

信太奈美（東京都立大学）

事業目的

令和5年度 障害者のスポーツに関する意識調査によると障害のある方のスポーツへの取組状況として「無関心」又は「行いたいができない」方が多い。そこで、家庭用ゲーム機を使用し自宅や通いなれた施設などで気軽に身体を動かせる「バーチャルスポーツ」を活用したスポーツ実施を促進することを目的にモデル実施を行う。

実施内容

実施した障害福祉サービス事業所は都内および近郊の障害福祉サービス事業所8カ所で各8回のモデル実施が行われた。実施メニューは株式会社TBSスパークル（理学療法士のインストラクター含む）によって選択・実施され、参加者は障害種別に応じたプログラムを体験した。各事業所の参加者数と実施メニューは事業所ごとに異なり、専門家スタッフとして当協会だけでなく東京都作業療法士会からも1施設につき2回、東京都障害者スポーツ協会からも不定期に参加した。役割はプログラムの実施のサポートと各回の参加者の反応の聴取やニーズに応じた実施メニューの検討であった。

事業所と参加者

事業所①（横浜）：株式会社オープンハウス オペレーションセンター 横浜事業所

肢体不自由、精神障害、視覚障害：7～10名

フリスビー、ハードル走、ビーチラケットなどを実施。PT 近藤

事業所②（日野市）：七生福祉園

知的障害：4～8名、

フィットボクシング、サッカー、ボウリングなどを実施。PT 信太

事業所③（小平市）：小平福祉園

肢体不自由、知的障害、視覚障害：7～10名、

サッカー、フリスビー、ボウリングなどを実施。PT 近藤

事業所④（大田区）：大田通勤寮

知的障害：5～6名、

ビーチテニス、バドミントンなどを実施。PT 近藤

事業所⑤（板橋区）：東京聴覚障害者支援センター

聴覚障害：5名

フィットボクシング、フリスビーなどを実施。PT 信太

事業所⑥（板橋区）：東京都チャレンジドプラス TOPPAN 株式会社

肢体不自由：5～6名

フィットボクシング、テニスなどを実施。PT 信太

事業所⑦（新宿区）：東京視覚障害者生活支援センター

視覚障害：4～5名

ファミリートレーナー、1.2Switchなどを実施。PT 近藤

【実施報告】令和6年度東京都バーチャルスポーツを用いた障害者のスポーツ実施促進事業

事業所⑧（都内近郊）：LITALICO ワークス（都内近郊 4 事業所）

精神障害：4～6名

マリオ & ソニック、フィットボクシングなどを実施。PT 近藤

＜肢体不自由編＞



パンフレット16ページ

PDF 見開き版 PDF 縦読み版



プログラムの多様性と参加者の反応

モデル事業で実施されたプログラムは多様であり、各プログラムは参加者の障害種別に応じて選定されている。参加者からの反応も良好であった。プログラムに対する感想や意見を聴取し、安全面を配慮しつつも屋内で活動量をあげる一つの方法としての広がり感じられた一方で、普及や導入には経済的な側面やゲームのセッティングの課題、安全の確保や継続するための工夫も必要である。今回参加者は、体験を通じて楽しみながら運動する機会を得ており、事業所でのコミュニケーションが広がるきっかけともなっていた。今後は外出機会の少ない在宅障害者への活動量拡大やスポーツを楽しむ機会の創出が期待される。

成果物

- ・パンフレット「Smile パラスポ ～見つけよう、私らしいスポーツ style～」
- ・障害種別の啓発動画

東京都スポーツ推進本部ホームページ

障害特性に合わせてゲームで楽しむバーチャルスポーツ「Smile パラスポ」

https://www.sports-tokyo-info.metro.tokyo.lg.jp/suru/smile_paraspo.html

報告者：信太奈美（東京都立大学）

執筆投稿規定

1. 学術研究論文
2. 教育関係論文
3. 症例報告論文
4. 行政及び士会運営に関する論評等

【投稿者の資格】

公益社団法人東京都理学療法士協会会員に限る。但し会長が依頼した場合この限りではない。

【投稿原稿の条件】

投稿原稿は他誌に発表、または投稿中の原稿でないこと。本規定に従って作成すること。

【著作権】

本誌に搭載された論文の著作権は東京都理学療法士協会に属する。

【研究倫理】

ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。

【原稿の採択】

原稿の採択は複数の査読者の意見を参考に編集委員会において決定する。査読の結果、編集方針に従って原稿の修正を求めることがある。また、必要に応じて編集委員会の責任において字句の訂正を行うことがある。

【執筆規定】

1. 論文構成

- 1) 標題（表題）：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。原則として略語、略称は用いない。
- 2) キーワード：標題及び要旨から3個を抽出する。不十分な場合は本文から補充する。
- 3) 著者名、所属名
- 4) 要旨：「目的」「方法」「結果」「結論」を含めて400字程度で記載する。
- 5) 本文：下記の各部分から成り立っていることを原則とする。

① はじめに（序論、諸言、まえがき等）

② 対象および方法（症例紹介）：倫理的配慮を記述すること。

③ 結果

④ 考察

⑤ 結論（まとめ）

⑥ 文献：引用文献のみとして本文の引用順に並べる。本文の該当箇所の右肩に一連番号を付ける。引用文献の著者氏名が3名以上の場合、最初の2名を記載し、他は「・他」あるいは「et al.」とする。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、巻、号、頁、西暦年号の順に記載する。単行本の場合は著者氏名、書名、編集者氏名、発行所名、発行地、年次、頁を記載する。

< 表記例 >

・藤田信子, 榎田康彦・他：椅子座位における側方傾斜刺激に対する頸部・体幹・四肢の筋活動一筋電図学的分析. 理学療法学, 17:27-30, 1990.

・Sepic, S.B., Murray, M.P., et al.: Strength and Range of motion in the Ankle in Two Age Groups of Men and Women. Am. J. Phys. Med, 65:75-84, 1986.

・真島英信, 猪飼道夫：生体の運動機能とその制御. 杏林書院, 東京, 1972, pp185-193.

・Junda, V.: Muscle Function Testing Butterworths, London, 1983, pp224-227.

6) 図表

原寸でそのまま掲載する（作図や縮小はしない）。図の番号および標題は図の下に、表の場合は表の上につける。本文と図表は分けて作成し、表・図・写真の挿入位置を本文の右欄外に指示する。

2. 原稿規定分量

原則として400字詰め原稿用紙20枚・8000字以内とする。

3. 文字表記

原則として現代かな使い、数字は算用数字、単位は国際単位系（SI単位）を用いる。

4. 略語

略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。

5. 表紙頁、著者頁

論文には表紙頁と著者頁をつける。表紙には標題、キーワード(3個)、本文ページ数、図表枚数、原稿文字数を記載する。著者頁には著者名、所属名、責任者連絡先(住所・電話番号・Emailアドレス)を記載する。表紙頁、著者頁の後に要旨・本文・図表を改めて記載する。

6. ページ番号・行番号

原稿にはページ番号(最下部中央)と本文右(または左)に5行ごとに行番号を記載する。

【原稿送付方法および連絡先】

1) 原稿送付先

原則として投稿原稿一式を1つのファイルにまとめ、

電子メールに添付して下記へ送付する。上記が不可能な場合は問い合わせすること。

2) 原稿送付先および連絡先

〒189-0024 東京都小金井市中町 2-22-32

社会医学技術学院 理学療法学科

(担当者) 中山雅和

TEL: 042-384-1030

FAX: 042-384-8508

E-mail: pt_tokyo_kikanshi@yahoo.co.jp

(平成31年1月31日 改定)

編集後記

寒暖差のある今日この頃ですが、東京都理学療法士協会会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか？さて本234号は全44ページとなりました。ぜひ各部局からのお知らせ、報告をご覧になっていただければ幸いです。また5月29日から31日まで東京国試フォーラムにてWorld Physiotherapy Congress 2025が、続く5月31日から6月1日まで第60回日本理学療法学会研修大会が開催されます。ぜひ会員の皆様におかれましてはご注目ください。第44回東京都理学療法学会大会は9月7日にはが杏林大学井の頭キャンパスにて開催予定でございます。大会の準備も着々と進行しているようです。大会ホームページからの追加情報を楽しみにしたいと思います。(M.I)

X



https://x.com/TPTA_PR2023

フォロワー 990

Facebook



<https://x.gd/9Ossi>

フォロワー 73

Instagram



https://www.instagram.com/tpta_pr2023/

フォロワー 441

公益社団法人 東京都理学療法士協会 正会員数

11,341名(令和7年5月26日現在)

(事務局) 〒151-0053

東京都渋谷区代々木 1-58-7 ヴェラハイツ代々木 201

Tel: 03-3370-9035 FAX: 03-3370-9036